

2) 恒久的な止水対策

(1) 工事概要

近年の気象状況や気候変動の状況を鑑みれば、今後も台風19号による水害と同等もしくはそれ以上の水害を被る危険性は免れないため、現状復旧的工事に加えて将来の水害にも耐えうる恒久的な止水対策工事を行いました。

(2) 工事内容

① 全体的な対策方針

「患者さんと職員の安全確保と病院機能の維持・継続」

大雨による洪水発生時、建屋への水の侵入を防ぐため、敷地内に部分的なコンクリート擁壁（床面+1200mm）を敷設しました。

各建屋出入り口等に止水板（約15箇所）を設置し内部への浸水を防止するほか、下水（汚水）の逆流対策のため、逆止弁付きの配管に交換しました。

敷地内の内水対策として排水ポンプを既設に加え数ヵ所増設しました。

更に、医療ガスや受水槽、非常用発電設備など病院運営にとっての重要インフラ設備の止水対策を重点的に実施しました。



逆止弁付き配管



止水板

② 病棟（中庭含む）及びサービス棟

敷地の一部にコンクリート擁壁を敷設し、各出入り口部分に止水板を設置しました。

病院機能継続のために重要な医療ガス設備、受水槽、非常用発電設備は、個別にコンクリート擁壁で保護しました。

③ 外来診療棟

各出入り口に止水板を設置しました。更に、大型検査機器の集中する放射線科エリアには、各検査室入り口に止水板を設置しました。

万が一の浸水に対し、各フロアの専用の排水口から地下ピットに落水させポンプで排水するような機構を取り入れました。

また、一部のエレベーターの制御装置の位置を上部に移設しました。

④ ほしのご保育園

園庭を囲うコンクリート擁壁を敷設しました。

各出入り口とサッシ扉部分に止水板を設置しました。万が一浸水しても影響を最小限に抑えるため、床面を木製フローリングから塩ビ製床材に仕上げる仕様変更を行いました。

⑤ ポラリス保健看護学院

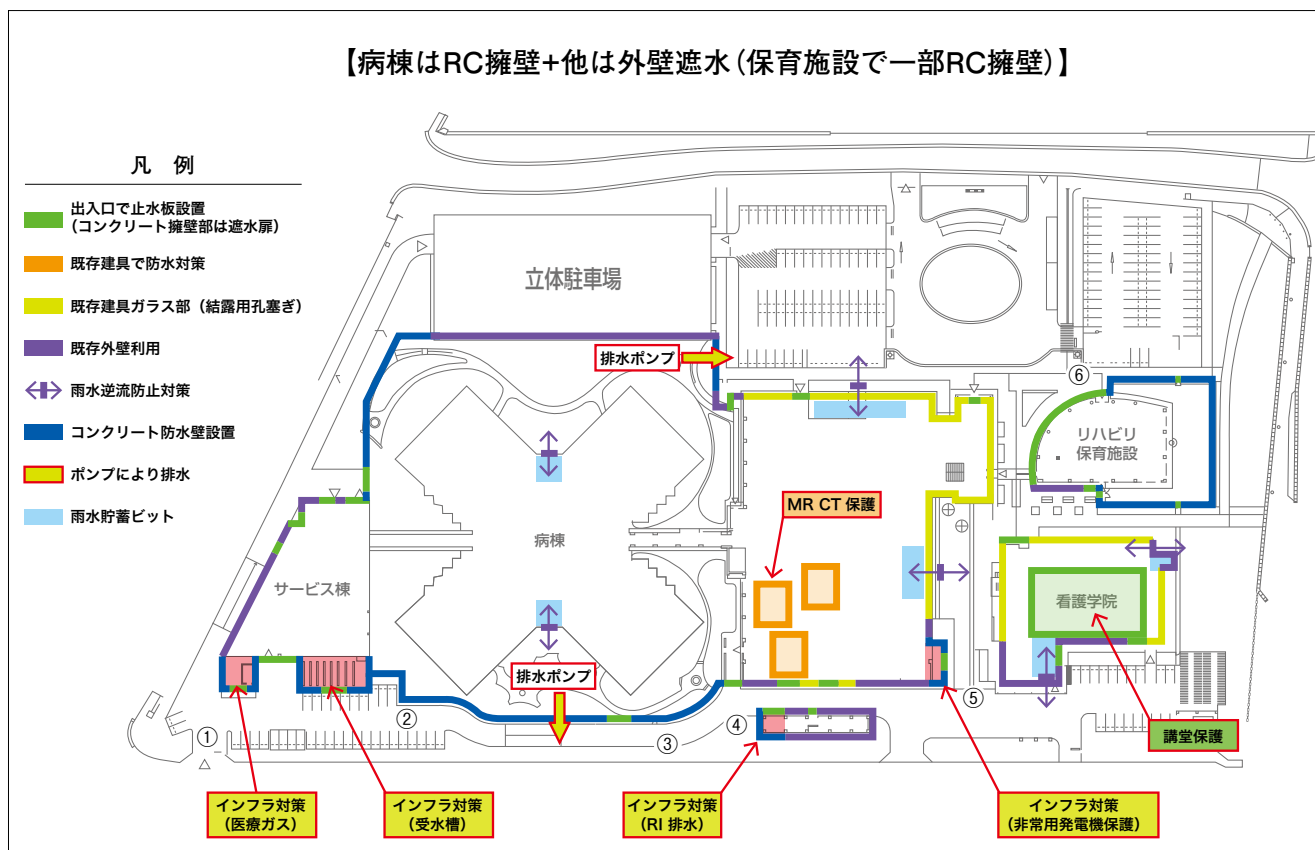
学院の出入り口とメグレズホール出入り口に止水板を設置しました。図書室の床材を、カーペットから水に強い塩ビ製床材に仕様変更しました。



重要なインフラ設備を守る 遮水壁



遮水扉



①医療ガス防水壁 (遮水扉開)



①医療ガス防水壁 (遮水扉閉)



②コンクリート防水壁（病棟外周）



③コンクリート防水壁（病棟～救急入口）



④RI排水防水壁・遮水扉



⑤非常用発電機 防水壁・遮水扉



⑥コンクリート防水壁（リハビリ・保育施設）